

令和5年度 学校評価 報告書

報告日
令和6年3月12日

幼稚園名	芦屋市立宮川幼稚園
園長名	澁谷 倫子 印

1 今年度の重点目標

- 1 教育課程の推進
- 2 幼児期から小学校期への円滑な接続の推進
- 3 地域と連携した豊かな保育や子育て支援

2 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- 評議員会及び学校関係者評価委員会を対面で行った。
- 子どもたちの様子を参観いただく。
- 保護者アンケートを実施、集約し保護者へ結果を周知している。
- 生活発表会・学校評価アンケートの結果や園だより等を提示し、評価を受ける。

3 学校自己評価結果

(A : 十分達成している B : 達成している C : 概ね達成している D : 達成していない)

No.	分野	重点目標	評価項目・取組状況	達成状況	改善方策	4 評価項目に係る学校関係者評価 学校自己評価結果及び改善方策についての評価
1	教育課程	1 2	○生き物とのふれあいや栽培活動等の実体験を保育の軸に据え、自然環境を構築し、保育への展開方法を模索した。経験したことをICT機器を活用し子ども同士で共有し気づきを深めたりするなど、さらなる活用に取り組んだ。文科省の研究協力園としても実践を重ねた。 ○小学校と連携し、1年生と年長児との相互の授業・保育交流を行った。子ども達が小学校の環境や児童に親しみ進学への期待感を高められるよう連携を図った。 ○少人数保育の利点を活かし、子ども一人ひとりに細やかに関わり、保護者と密に連絡を取りながら、よりよい成長をめざした。	A	○子どもたちが豊かな自然体験ができるよう、栽培計画を立て専門家の助言を受けながら環境作りを行う。2年目を迎えるICTの取組では、子ども同士がつながる活用をめざし、活用方法を工夫する。 ○小学校連携では、授業・保育交流する機会を設け、子ども及び教師同士が相互理解を推進する。 ○子ども一人ひとりの良さを育とうとしている姿を共有し、対応した関わりができるように話し合う。保護者とも密に連絡を取り共に成長をめざす。	○栽培活動や果樹の育成等、豊かな自然体験ができる環境づくりに努めている。日常的に自然を活かした遊びを展開していることがよい。ICT活用では子ども同士がつながる活用を行い、子どもの気付きや学びに活かされている。 ○幼小連携においては小学校の協力を得て連携を推進している。今後も継続されたい。 ○子どもたちが意欲的に生き生きと生活している。保護者アンケートからも子ども一人ひとりを大切に保育をしていることが評価されている。絵本の読み聞かせ生活習慣等、今後、家庭と連携し推進されることを願う。
2	地域連携	3	○地域の教育ボランティアの方に継続して指導いただくと共に、新たな地域人材を発掘し、地域の教育力を教育過程に反映させた。 ○浜町自治会や近隣の施設との交流を図った。浜町こども会に協力し、こどもフェスタを宮川幼稚園にて開催いただいた。さらに浜町自治会と協力し、防災研修会や地域の見守りに参加した。	A	○新たな地域の教育ボランティアの開拓を図り、幅広い経験ができるよう努める。 ○地域のイベントに参加したり、園として協力できることを模索したりしながら、地域との連携を深める。	○新たな出会いから家庭では経験できない活動を行っている。子どもたちが地域の中で大切にされていることを実感する場にもなっている。 ○コロナ禍で中止していた交流を少しずつ再開している。地域のイベントを園で開催し、地域の子どもたちが集う場となったことは大変意義深い。今後も相互に協力したい。

5 総合的な学校関係者評価

自然環境を豊かに取り入れた保育やICTを活用した保育実践に成果が感じられる。小学校や地域と連携しながら、相互に理解を深め交流を推進している。今後も継続されたい。